

令和9（2027）年度

福井県立大学生物資源学部

編入学学生募集要項

生物資源学科《第3年次》

[推薦選抜]

令和8（2026）年2月



福井県立大学

Fukui Prefectural University

目 次

入学者受入方針	1
I 入学者選抜の概要	
1 募集人員	3
2 編入学の時期および編入学年次	3
II 推薦選抜	
1 出願資格	3
2 選抜方法および選抜期日	3
3 出願手続	4
4 合格発表	7
5 成績の開示	7
III 入学手続、初年度納付金等	
1 入学手続	8
2 初年度納付金	8
3 その他	9
IV 編入後の履修等	10
V 個人情報の取扱いについて	10
一般教育の履修	11
専門教育科目の履修	18
生物資源学科（25年度）入学生用	

■所定の様式（以下の各書類は、下記連絡窓口にもメールにより請求してください。）

A 票	志願票
B 票～C 票	写真票、受験票
D 票	自己推薦書
E 票	推薦書

- ・連絡窓口：福井県立大学入学試験本部（入試企画室）
- ・メールアドレス：nyusi@g.fpu.ac.jp

※メールの件名は、

「生物資源学科3年次編入学[推薦選抜]願書請求【〇〇高専】」
とし、【 】内に高等専門学校名を記入してください。

※メールの本文には、

- ・氏名（ふりがな）
 - ・連絡先（電話番号およびメールアドレス）
 - ・所属区分（受験希望学生・高等専門学校教職員・保護者など）
- を明記してください。

入 学 者 受 入 方 針

【大学の理念・目的】

福井県立大学は、時代の発展に即応した学術文化の高度化を推進する拠点として、真理探究の精神、広い視野と豊かな創造力、高度で専門的な知識・技術を有する有為な人材を養成するとともに、先進的な科学の研究および技術の開発を行い、学術情報を地域社会へ開放することにより、福井県はもとより、わが国の産業と文化の発展に寄与することを目的とし、もって人類の永続的福祉の向上に貢献することを使命としています。この使命を達成するために、次の三つの基本理念を掲げています。

- ① 新しい時代にふさわしい魅力ある大学
- ② 特色ある教育・研究を行う個性ある大学
- ③ 地域社会と連携した開かれた大学

【教育目標】

- ① 学問への関心を引き出すとともに、全人的教養を身につけ、自立した個人として成長できる能力を養う。
- ② 科学の飛躍的発展に対応できる高度な知識や技術とともに、専門職にふさわしい態度を身につけ、社会のニーズに対応できる能力を養う。
- ③ 少人数教育の特色を活かし、思考力・判断力・表現力・創造力・コミュニケーション力などを併せ持った総合的人間力を身につけ、社会・個人との豊かな関わりを持つことができる能力を養う。
- ④ 国際化、情報化、少子高齢化などの時代の変化を踏まえ、生命と環境、経済・社会、医療福祉の問題など新たな課題に取り組む能力を養う。
- ⑤ 自ら学問を探求する態度を身につけ、個性ある研究が行える能力を養う。
- ⑥ 地域社会との連携を深め、地域住民と協働した社会づくりに貢献できる態度を養う。

生物資源学部

【理念・目的】

生物資源学部は、生物資源にかかわる諸領域において以下の教育研究活動を推進することにより、地域社会、日本、世界の産業と文化の発展に寄与し、もって人類の将来にわたる福祉の向上に貢献します。この使命を達成するために、次の三つの基本理念を掲げます。

- ① 時代の進展に即応した学術文化の高度化の推進と、それに寄与できる人材の育成。特に、社会の多様な場で困難を解決し真の発展を図れる人材、持続可能な社会の構築において最新の専門知識と先端技術を用い適切な対処ができる人材を育てます。

- ② 自主的な真理探究の精神、広い視野および豊かな創造力を有し、基礎的および専門的な知識と技術、そして多様性に関する寛容さを備えた実践力ある人材の育成
- ③ 学術情報の地域社会への開放

【教育目標】

責任ある社会人として必要な教養と倫理観を身につけるとともに、価値観のゆらぐ現代社会において、変化するものとしなないものを見極めて現象の本質に科学的に迫り、生物資源にかかわる諸問題、特に持続可能な社会の構築に関して、最新の専門知識と先端技術を用い適切な対処ができる能力を養います。

生物資源学科

地域社会はもとより世界の人々の将来にわたる幸せのため、グリーン・デジタルなどの新興分野を含む社会の多様な場で困難を解決しその真の発展を図れる、意欲・能力・創造性そして寛容さを備えた人材を育成します。そのため、次の教育目標を定めます。

- ① 科学・技術が自然や社会に与える影響を多面的に考え、生物資源の利用に当たって、責任ある方向付けに必要な基礎的素養を身につけます。
- ② 生命科学の幅広い理解と応用のための基礎として、情報科学、自然科学の知識を身につけます。
- ③ 生物資源の資源採取・加工・利用や環境保全等のグリーンテクノロジーに関する専門知識ならびにそれを応用する上で必要な知識を身につけます。
- ④ 急速に発展するデジタル技術を用いて必要な情報を収集・解析し、問題を発見や解決し、自らの考えを論理的に形成できる能力を身につけます。
- ⑤ 自然環境や社会の持続可能性に配慮するなど限られた条件の下で、生物化学にかかわる技術的な課題を設定・解決する能力を身につけます。また、課題解決に向けたグループワークのための対話能力と文章作成能力を身につけます。

【アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）】

生物資源学部の教育目標に従い、求める学生像や、大学入学までに身につけておくべき教科と科目に関して、次のように定めます。

生物資源学科

求める学生像：微生物から高等動植物まで多様な生物に興味と関心を持ち、分子から生物、さらに生態系にまで及ぶ広範な対象を取り扱う科学分野の勉学に強い探究心を持って取り組むことができる学生を求めます。生物資源にかかわる知識と技術を携え、自分の考えをまわりのひとに的確に伝えることができ、将来にわたって主体的に活動する意欲と希望を持った学生が望まれます。

必要な知識・技能：生物資源学を大学で学ぶためには、高等学校等において、国語、英語、数学、生物、化学、物理、情報の基礎学力の習得が必要です。

I 入学者選抜の概要

1 募集人員

学科名	募集人員	
	推薦選抜	一般選抜※
生物資源学部 生物資源学科	若干名	若干名

※収容定員の充足状況によっては、一般選抜を行わない場合があります。詳細は、令和8(2026)年夏頃に大学ホームページ(<https://www.fpu.ac.jp>)上で公表します。

2 編入学の時期および編入学年次

編入学の時期は、令和9(2027)年4月1日とし、編入学年次は第3年次とします。

II 推薦選抜

1 出願資格

次に掲げる各号すべてに該当する者

- (1) 高等専門学校における生物・生命・バイオ関連の学科・コース等を令和9(2027)年3月までに卒業見込みの者
- (2) 本学科の卒業要件単位として認定できる科目を十分に履修している者※
- (3) 人物・学業成績ともに優秀で、高等専門学校長が責任をもって推薦できる者

※(2)に該当するか確認したい場合は、福井県立大学入学試験本部(入試企画室)(メールアドレス:nyusi@g.fpu.ac.jp)まで電子メールによりご連絡の上、ご相談ください。

2 選抜方法および選抜期日

入学者の選抜は、面接の成績ならびに調査書および自己推薦書の内容を総合して行います。

(1) 選抜期日・時間割

選抜期日	時 間 割	
令和8年6月7日(日)	面接	10:00 ~ 12:00

(注1) 当日、受験者ごとに、面接のための集合時刻およびおおよその開始時刻を指定します。

(注2) 面接では、生物資源学科で要求される基礎学力を問う質問を行うことがあります。

(2) 試験会場

福井県立大学永平寺キャンパス 福井県永平寺町松岡兼定島 4-1-1

(3) 受験上の注意事項

- ① 受験者は、指定された集合時刻までに、決められた受験者控室に集合し、待機してください。面接開始時刻に不在であった場合は、欠席したものとして取り扱います。
- ② 当日は、受験票を必ず持参してください。

- ③ 当日、受験票を忘れた方は、速やかに試験会場の試験本部で仮受験票の交付を受けてください。また、受験票は、入学手続、成績開示の際に必要となりますので、試験後も大切に保管してください。
- ④ 携帯電話等は、受験者控室に入る前にアラームの設定を解除し、電源を切ってかばん等に入れておいてください。
- ⑤ 待機時間に携帯電話等を操作した場合、「不正行為」とみなしますので注意してください。
- ⑥ 不正行為を行った場合は、その場で受験の中止と退室を指示され、それ以降の受験はできなくなります。また、この入学者選抜試験におけるすべての成績を無効とします。
- ⑦ 試験会場において他の受験者の迷惑となる行為や危険な行為はしないでください。
- ⑧ 試験会場では昼食の販売を行いませんので、必要に応じて弁当を持参してください。
- ⑨ インフルエンザ、ノロウイルス、新型コロナウイルス等の感染症に罹患し、試験日に療養中の者は、他の受験者や監督者等に感染するおそれがあるため受験できません。

(4) 配点

面接	成績証明書 および推薦書	自己推薦書	合計
100	50	50	200

3 出願手続

(1) 出願期間

令和8（2026）年5月8日（金）～5月18日（月）（当日消印有効）

(2) 出願方法

- ① 志願者は、出願書類を市販の角形2号封筒（240 mm×332 mm）に入れ、その封筒の表に自身の住所・氏名を記入したうえ、出身高等専門学校に提出してください。
- ② 出身高等専門学校長は、出願書類をとりまとめ、一括して書留速達扱いの郵送または直接持参によって提出してください。
- ③ 郵送による場合には、必ず封筒表面に「**生物資源学科3年次編入学選拔出願書類〇名分 在中**」と朱書してください。
- ④ 直接持参の受付時間は、平日の午前9時から午後5時までとします。土曜日、日曜日および祝日は受け付けません。

(3) 出願先

福井県立大学 入学試験本部（入試企画室）

〒910-1195 福井県永平寺町松岡兼定島 4-1-1

(4) 出願書類

必要な書類がすべてそろっていない場合には受付できませんので、出願の際に十分確認してください。

出願書類等	留意事項等
志願票 A票	所定の様式を A4サイズ で両面印刷し、自筆で記入してください。

写真票 B票	所定の様式を A 4サイズ で 両面印刷 し、自筆で記入してください。 写真票には、縦4cm×横3cm の写真(正面上半身無帽、背景なし、出願前3ヵ月以内に単身で撮影したもの)を所定欄に貼付してください。 (B票・C票は、合せて1枚です。)
受験票 C票	
自己推薦書 D票	所定の様式を A 4サイズ で 片面印刷 し、出願者本人が、自己推薦文、校内・校外等での活動、取得資格を自筆で記入してください。
成績証明書	出身高等専門学校長が作成したもの。被災その他の理由で、成績証明書が発行されない場合は、成績証明書発行不能証明書等、成績を証明できない旨の証明書を提出してください。
卒業見込証明書	出身高等専門学校長が作成したもの。成績証明書に卒業見込の記載があれば、提出不要です。
推薦書 E票	出身高等専門学校長が所定の様式により作成し、厳封したものを提出してください。 推薦書は、所定の様式にデータを入力し、 A 4サイズ で 片面印刷したものをクリップで留めて 提出してください。

◇所定の様式の請求先◇

上記所定の様式は、下記連絡窓口まで電子メールにより請求してください。

- ・連絡窓口：福井県立大学入学試験本部（入試企画室）
- ・メールアドレス：nyusi@g.fpu.ac.jp

※メールの件名は、「**生物資源学科3年次編入学[推薦選抜] 願書請求【〇〇高専】**」
とし、【 】内に高等専門学校名を記入してください。

※メールの本文には、

- ・氏名（ふりがな）
- ・連絡先（電話番号およびメールアドレス）
- ・所属区分（受験希望学生・高等専門学校教職員・保護者など）を明記してください。

(5) 検定料の支払い

以下の振込期間内に指定する銀行口座へ入学検定料をお振込みください。

検定料 17,000 円

振込期間 令和8(2026)年4月27日(月)～5月15日(金)

振込先 福井銀行 福井医大支店 普通預金口座 1141718
コウリツダ イクホウジンクイケンリツダ イク

受取人 公立大学法人福井県立大学

(注) ①振込依頼人の名前は、必ず出願者本人の名前にしてください。

②振込手数料は振込者が負担してください。

③出願書類が期限内に到着しても、検定料の振込が確認できるまでは受付となりませんので、余裕をもってお振込みください。

④振込受付証明書や振込明細書、振込完了画面のコピー等、「依頼人名」「日付」「振込金額」「振込先」が確認できる書類を保管してください。

なお、納入済の入学検定料は次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。

- ①検定料を振り込んだが本学に出願しなかった(出願書類等を提出しなかった、または出願が受理されなかった)場合
- ②検定料を誤って二重に振り込んだ場合

《返還請求の方法》

検定料返還請求書を福井県立大学財務課まで郵送してください。期限・請求書様式など詳細は本学ホームページ【<https://www.fpu.ac.jp>】をご覧ください。

福井県立大学財務課

〒910-1195 福井県永平寺町松岡兼定島4-1-1

電話 0776-61-6000

(6) 障害を有する入学志願者等との事前相談

障害を有する等、受験上および修学上の配慮を必要とする可能性のある入学志願者は、出願の前にあらかじめ福井県立大学入学試験本部(入試企画室)まで連絡し、相談してください。

相談の内容によっては、本学の試験までに対応できず、十分な配慮による受験ができない場合もありますので、なるべく早く相談してください。

- ①相談の時期 出願期間開始前まで
- ②相談の方法 相談書(様式は自由で、健康診断書等必要書類を添付したもの)を提出してください。必要な場合は、本学において志願者またはその立場を代弁できる関係者等との面談を行います。
- ③連絡先 福井県立大学入学試験本部(入試企画室)
〒910-1195 福井県永平寺町松岡兼定島4-1-1
電話 0776-68-8297
FAX 0776-61-6012

(7) 出願手続上の注意事項

- ①入学許可の後であっても、出願書類の記載と相違する事実が発見された場合には、入学を取り消すことがあります。
- ②出願受付後には、出願事項の変更は認めません。ただし、氏名、住所、電話番号に変更があった場合には、福井県立大学入学試験本部(入試企画室)まで連絡してください。
- ③一度受付をした出願書類は、理由のいかんを問わず返却しません。

◇不測の事態が発生した場合の諸連絡◇

不測の事態により、試験日程や選抜内容など募集要項の内容に変更が生じた場合は、本学ホームページ等でお知らせしますので、出願前や受験前は特にご注意ください。

- ・ホームページアドレス <https://www.fpu.ac.jp>
- ・連絡窓口 福井県立大学入学試験本部(入試企画室) TEL 0776-68-8297

4 合格発表

(1) 合格発表期日 令和8年6月15日(月)午前10時

(2) 発表方法

出身高等専門学校長に対しては合格者名を通知し、合格者に対しては合格通知書を送付します。また、合格者の受験番号を本学のホームページ【<https://www.fpu.ac.jp>】に掲載します。ただし、これは参考情報ですので、可否の確認は合格者に送付する合格通知書で行ってください。

なお、電話等による問い合わせには応じません。

5 成績の開示

本学の受験者本人に限って、個人成績を開示します。希望者は、次により申し込んでください。

(1) 令和9年度入学試験成績開示の申込期間

令和9年4月23日(金)～令和9年5月24日(月)

(2) 申込者 受験者本人に限ります(代理人は不可)。

(3) 申込先 福井県立大学入学試験本部(入試企画室)

(4) 申込方法

【窓口での申込】

・本学受験票を持参の上、所定の「入学試験成績開示申込書」により申し込んでください。

【郵便での申込】

・次の1～3を同封して申込期間内に到着するよう郵送してください。

・申込後1月程度にて受験者本人あて書留郵便で送付(受験票も返却)します。

1 所定の「入学試験成績開示申込書」

2 受験票(本人確認のため使用・コピー不可)

3 返信用封筒

ア 返信用封筒の大きさは、長型3号を使用してください。

イ 返信用封筒には、郵便番号、住所、あて名を記載し、簡易書留相当の金額の郵便切手を貼り付けてください。

(5) 開示の内容

個人成績 面接(自己アピールプレゼンテーション、口頭試問)、出願書類等ごとの点数および総合点

(6) 開示方法

・閲覧または郵送により開示します。

・郵送による開示は、受験者本人あて書留郵便で送付(受験票も同封し返却)します。

(7) 問合せ・郵送先

福井県立大学入学試験本部(入試企画室)

〒910-1195 福井県永平寺町松岡兼定島4-1-1

電話 0776-68-8297

Ⅲ 入学手続、初年度納付金等

1 入学手続

(1) 入学手続期間 令和8(2026)年6月16日(火)～6月23日(火)(当日消印有効)

(2) 入学手続方法

- ①入学手続に必要な書類は、合格発表後に郵送します。
- ②書類提出は、**書留速達扱いの郵送**または**直接持参**によってください。直接持参の受付時間は、平日の午前9時から午後5時までとします。土曜日および日曜日は受け付けません。
- ③入学手続を完了した方には、入学許可証を郵送します。

(3) 入学手続先

福井県立大学入試企画室

〒910-1195 福井県永平寺町松岡兼定島 4-1-1

電話 0776-68-8297

(4) 入学手続上の注意事項

- ①合格者が入学手続期間内に入学手続を完了しない場合は、入学を辞退したものと取扱います。
- ②必要な書類がすべてそろっていない場合には受付できませんので、書類の提出の際に、十分確認してください。
- ③一度受付をした入学手続書類および入学料は、理由のいかんを問わず返却しません。

2 初年度納付金

(1) 入学料

入学手続の際に、下記の金額の入学料を納付する必要があります。

- ① 福井県内の者 188,000円
- ② 上記以外の者 282,000円

(注) 福井県内の者とは、以下のいずれかに該当する者のことをいいます。

ア 令和8年4月1日以前から引き続き福井県内に住所を有する者

イ 令和8年4月1日以前から引き続き福井県内に1親等の親族が住所を有する者

ウ 理事長がこれらに準ずると認める者

(2) 授業料

- ① 金額 年額535,800円
(令和8年度実績。なお、在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定後の授業料が適用されます。)
- ② 納付方法 前期(納付期限:5月12日)、後期(同11月12日)の2回に分けて徴収します。

3 その他

(1) 入学料・授業料の免除制度

国が行う高等教育の修学支援新制度の対象大学となっています。本制度の対象者として認定された場合は、入学料・授業料が全部または一部免除されます。

(2) 奨学金

◆奨学金の種類

奨学金には、日本学生支援機構と、その他地方公共団体や公益法人・営利法人等が行うものがあります。

奨学金には、貸与（返還義務のあるもの）と給付（返還義務のないもの）があり、多くの奨学金は貸与奨学金です。卒業後には、返還義務が生じますので、注意してください。

◆日本学生支援機構の奨学金（留学生は対象外）

日本学生支援機構では、成績（学業）の優れた学生で、経済的理由により修学が困難な者に対し、奨学金の給付、貸与を行っています。

<種類>

・給付奨学金

入学料・授業料免除と併せて給付される、返還義務のない奨学金です。ただし、学業成績の不振等がある場合は、返還を求められる場合もあります。

（大学院生は対象外です。）

・第一種奨学金

返還義務のある無利子の奨学金です。給付奨学金と併給する場合は、月額に制限が設けられます。

・第二種奨学金

返還義務のある有利子の奨学金です。給付、第一種奨学金との併給も可能です。

(3) 麻疹（はしか）、風疹（三日はしか）の流行予防の手続き

学内での麻疹（はしか）、風疹（三日はしか）の感染症の流行を防止するため、入学手続きの際にこの予防接種の記録を提出していただきます。2回以上の接種記録がない場合などは、予防接種を受けていただくことがあります。

(4) 下宿・アパート

アパート等のあっせんは行っておりません。

(5) 受験の際の宿泊について

宿泊施設のあっせんは行っておりません。

IV 編入学後の履修等

1 修業年限

修業年限は2年とします。ただし、編入学時における既修得単位の認定数等により、2年を超える在学年数が必要となることがあります。

2 卒業資格

卒業の要件は、2年以上在学し、編入学時に認定された単位と合わせて下記の本学部所定の卒業要件単位を修得することです。一般教育科目および専門教育科目の履修およびカリキュラムについては、本冊子11ページ以降の「一般教育の履修」および「専門教育科目の履修」を参照してください。

生物資源学科卒業要件単位

一般教育科目	28単位
専門教育科目	
必修科目	68単位
選択科目 (A群)	8単位以上
選択科目 (B群)	26単位以上
合 計	130単位以上

3 既修得単位の取扱い

編入学前に大学等で修得した科目の単位（既修得単位）は、編入学後に定められた手続による審査で認められれば、本学部の卒業要件単位として最大62単位まで認定されます。

V 個人情報の取扱いについて

福井県立大学では、個人情報について以下のとおり取扱いますので、予めご了承ください。

- 1 個人情報は、「個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）」および「公立大学法人福井県立大学個人情報保護取扱規程」に基づき、適正に処理します。法令等の規定に基づくときなどの例外を除き、原則として、第三者に提供することはありません。
- 2 本学への出願に当たってお知らせいただいた氏名、住所およびその他の個人情報については、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格発表、③入学手続、④入学者選抜方法等における調査、研究、分析、⑤およびこれらに付随する業務を行うために利用します。
- 3 入学者選抜に用いた試験成績の個人情報は、入学者選抜方法等における調査、研究、分析を行うために利用します。
- 4 各種業務での利用においては、一部の業務を外部委託することがあります。この場合、受託者には個人情報の保護が義務づけられます。
- 5 入学者についてのみ、本学への出願に当たってお知らせいただいた個人情報および入試成績は、入学後の、①教務関係（学籍、修学指導等）、②学生支援関係（健康管理、就職支援、授業料免除・奨学金申請等）、③授業料徴収に関する業務を行うために利用します。

一般教育科目の履修

一般教育の履修方法

【25年度入学生（生物資源学部）】

一般教育科目における卒業に必要な単位数およびカリキュラムは、入学年度・学部によって異なるので注意すること。

アオッサのサテライトキャンパスにおいて地域志向科目が開講されている。（全学年履修可能）

授業科目の区分		生物資源学部 生物資源学科	
必修科目	英語	英語 A (2 単位)	○
		英語 B (2 単位)	○
		英語 C (2 単位)	○
		英語 D (2 単位)	○
	情報	ICT リテラシー (2 単位)	
		データサイエンス基礎 (2 単位)	○
		情報科学 (2 単位)	○
選択科目			
卒業要件単位数		28 単位	

○・・・必修科目

一般教育科目は「英語」「情報」「その他（導入教育、第2外国語、体育、人文・自然・社会科学等の講義科目）」に大別され、それぞれに必修科目と選択科目がある。

1 英語

基礎力を固める必修科目に加えて、実践力を磨く多彩な選択科目や、異文化理解力を育む海外研修プログラムを通して、それぞれの目標達成に向けた学びの機会を提供する。

必修科目として4種類4科目ある（各科目2単位）。1年次生が対象で、

4科目8単位修得しなければならない。

- ・英語 A：文法事項の確認と語彙の習得によって英語力の基礎を固める。
- ・英語 B：英文法と語彙の知識を用いて英語で表現・発信する力を身につける。
- ・英語 C：一般的な英文を使いながら英文を正確に読み解く力を身につける。
- ・英語 D：専門分野に応じた英文を取り入れながら総合的な英語運用能力を高める。

1年次前期は「英語 A」「英語 B」、1年次後期は「英語 C」「英語 D」を履修する。

「英語 A」「英語 C」は基礎力を身につけ、「英語 B」「英語 D」は基礎の応用を重視した科目である。

選択科目として6種類12科目ある（各科目2単位）。必修科目と合わせて、より実践的な英語力を修得することを目指す学生を対象とする（生物資源学科においては専門科目として履修）。

- ・英語発展 I A/B：学術的な英語に触れ、プレゼンテーション・論文など自らの専門と関連づける。
- ・英語発展 II A/B：海外で実際に英語を使うために必要となる実践的な英語力を身につける。
- ・英語発展 III A/B：TOEIC など各種英語資格試験に対応できる英語力を総合的に身につける。
- ・英語発展 IV A/B：文学作品や映画を題材として英語と社会文化の理解を深める。
- ・英語発展 V A/B：各種メディアの記事を題材として国内外の社会情勢を英語で情報収集する。

- ・英語発展VIA/B：スピーチやプレゼンテーションの練習を通してコミュニケーション能力を高める。
- 前期は「英語発展Ⅰ～VIA」、後期は「英語発展Ⅰ～VIB」が開講される。なお、教材や担当教員が違っていても、同じ科目名ものは複数回履修できない（例えば、「英語発展ⅠA」と「英語発展ⅠB」は科目名が異なるためいずれも履修できる）。**ただし、同一の教材を使用する英語科目は、担当する教員や科目名が違ってても、複数回受講することは原則としてできない。**

海外研修プログラムは、本学の休業期間に海外の大学等で英語研修を行い、コミュニケーション能力と異文化理解力を向上させることを目的としている。各プログラムの研修先・時期・期間、選考、単位認定、補助金等は年度ごとに変わるため、詳細は各年度の説明会・募集要項、大学ホームページで確認すること。

2 情報

必修科目では、現代の情報社会に求められる情報リテラシー、人工知能（AI）等の情報技術やデータサイエンスを活用する為の基礎知識や技能を身につける。加えて、社会や地域における課題発見・解決のためにAI等の情報技術やデータサイエンスを活用できる実践的な能力を身につける**選択科目**を提供する。

必修科目として、1年次前期に「ICTリテラシー」または「データサイエンス基礎」を、1年次後期に「情報科学」を履修する（各2単位）。

- ・「ICTリテラシー」（演習）：パソコンの基本操作と管理、情報倫理やセキュリティ等に関する基礎知識を身につける。
- ・「データサイエンス基礎」（演習）：データを扱い、その特徴を適切に読み解き、説明する能力を身につける。**生物資源学部生物資源学科の必修科目。**
- ・「情報科学」（講義）：AIやデータサイエンス、情報倫理やセキュリティ、データ倫理、コンピュータリテラシー、メディアリテラシー等に関する基礎知識を身につける。**全学部必修科目。**

「ICTリテラシー」、「データサイエンス基礎」は、必修に指定されていない学部学科の学生も履修できる。

また、本学では、数理・データサイエンス・AIに関する知識を深め、技能を身に付けることができる「全学数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を提供している。プログラムには、その基礎的素養を身に付けることを目的としたリテラシーレベルと、現実の課題を解決する為の実践的な能力を身に付けることを目的とした応用基礎レベルがある。リテラシーレベルは、「情報科学」と「データサイエンス基礎」の2科目計4単位を修得することで修了できる。

選択科目は、以下に示す11科目ある。AIの利活用や、データサイエンス、プログラミング等に関して、より深い知識と実践的な能力を身に付けたい学生や、情報に関する資格取得を目指す学生を対象とする。選択科目は、1年次前期から4年次まで履修できる。

- ・「データサイエンス応用」（演習）：Pythonを用い、実践的な統計解析を学ぶ。
- ・「プログラミング基礎」（演習）：Pythonを用い、アルゴリズムやプログラミングの基礎を学ぶ。
- ・「プログラミング応用」（演習）：Pythonを駆使してデータサイエンティストやマーケターになるために必要となる実践的な方法を学ぶ。
- ・「メディア情報リテラシー」（演習）：メディアリテラシーと情報リテラシー、その周辺知識を学ぶ。
- ・「情報処理演習（AI）」（演習）：人工知能（AI）の原理と応用を学ぶ。
- ・「情報処理演習（CG）」（演習）：3DCGの基本的なモデリング、テクスチャリング、レンダリング、CGアニメーションを学ぶ。
- ・「情報処理演習（Web開発）」（演習）：JavaScriptによるプログラミングの基本を学ぶ。
- ・「情報活用プロジェクト演習（演習）」：AIやデータサイエンスなどの情報技術を応用して、学生がアイデアを形成し、発展させるための具体的な方法や技術を学ぶ。
- ・「情報技術者（国家試験Ⅰ）」（講義）：国家試験「ITパスポート」に準拠し、ITを利活用する全ての社会人に求められる共通知識を身につける。
- ・「情報技術者（国家試験Ⅱ）」（講義）：国家試験「情報セキュリティマネジメント」に準拠し、ITを安全に利活用するための基礎知識・技能を身につける。
- ・「情報技術者（民間資格）」（演習）：情報技術に関する民間資格であるG検定を対象として、この検定に沿った内容を身につける。

また、「全学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）」は、以下①～③のすべての要件を満たす計 8 単位以上を修得することで修了できる。

- ① AI・DS 基礎科目群（リテラシーレベル構成科目）
リテラシーレベルの修了要件を満たす 4 単位
- ② 数学科目群
「数学基礎」、「統計学基礎」、「解析学」、「代数学」（各 2 単位）のいずれか 1 科目 2 単位以上
- ③ AI・DS 応用・実践科目群
「プログラミング基礎」、「プログラミング応用」、「データサイエンス応用」、「情報活用プロジェクト演習」、「情報処理演習（AI）」（各 2 単位）のいずれか 1 科目 2 単位以上

3 その他（導入教育、第 2 外国語、体育、人文・自然・社会科学等の講義科目）

（1）導入教育

「導入ゼミナール」は、高校から大学へのスムーズな接続を目的とした初年次教育科目である。生物資源学部は選択。

「教養ゼミナール」は、初年次から 2 年次へのスムーズな接続を目的とした初年次教育科目である。生物資源学部は選択。

いずれも必修クラスは定員 20 人を上限としたゼミナール形式で授業を行う。選択クラスでは希望者が定員を超えた場合、抽選を行うことがある。

（2）第 2 外国語

外国語科目として、英語以外に「中国語」「韓国朝鮮語」「ドイツ語」「フランス語」「ロシア語」を開講する。なお、生物資源学部は、「ドイツ語」「フランス語」「ロシア語」は受講できない。

各言語クラスには「A」「B」（中国語のみ「C」「D」）がある。「A」「B」は初心者対象クラス、「C」「D」は、学習 2 年目に相当する中級クラスである。「A」と「C」が前期に、「B」と「D」が後期に開講される。「A」「B」は、原則として週 2 回の授業で 1 セットとし、半期で合計 4 単位が与えられる。「C」「D」は、1 授業ごとに 2 単位が与えられる。

「B」は「A」あるいはそれに相当する内容を修得した学生に対して開かれる科目である。

「C」「D」はいずれも「B」あるいはそれに相当する内容を修得した学生に対して開かれる科目である。

「日本語 A/B」は、外国人留学生を主対象として開講される科目であり、**日本人学生は受講できない。原則、外国人留学生は受講すること。**

（3）体育

本学では、身体を基盤とした多様なスポーツや運動を通じて他者を理解し、コミュニケーション力を高めるとともに、自らの身体運動機能への理解を深めることで、生涯にわたり健康を管理・改善し、健やかに生きる力を身につけることを目的に、「体育実技Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（各 1 単位）」を開講している。履修者は複数のクラスに分かれ、異なるスポーツ・運動種目を学修する。スポーツ種目とその学修内容については、シラバスを参照すること。

「体育実技Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、それぞれ 1 科目のみ履修可能である。教員免許状の取得を希望する場合、「体育実技Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」から 2 科目を履修する必要がある。定員の関係で希望どおりに履修できない場合がある。抽選時の優先順位は、①基礎科目として履修している学生（その中でも上級年次の学生）、②第 1 週の授業に出席し、所定の手続きをした学生、③教職課程を履修している学生、④その他、とする。

（4）人文・自然・社会科学等の講義科目

便宜上、人文科学・自然科学・社会科学・健康科学・地域・キャリアに類別される各種講義科目がある。

いずれも自由に選択できるが、学部学科によって（専門科目として）必修に指定されている科目や卒業単位として認定されない科目もある。

【専門科目として必修指定している学科・科目】

生物資源学部生物資源学科：「数学基礎」「統計学基礎」

【生物資源学部では卒業単位として認定されない科目】

「国文学」「文学概論」「国文学史」「日本史」「イスラーム史」「行動科学」「人間関係論」「南

米の社会と環境」「東南アジアの文化と社会」「観光学」「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業開講科目(1)～(100)」

なお、地域創生士資格を取得するためには、「地域」区分の5～6科目のなかから2科目以上を履修しなければならない。

一般教育科目カリキュラム表（25年度入学生用）【生物資源学部】

卒業要件単位数 生物資源学部

28単位以上

授業科目の名称		配当年次	単位数		備考
			必修	選択	
必修科目	I 英語	英語A	1	2	※「データサイエンス基礎」は生物資源学科の必修科目
		英語B	1	2	
		英語C	1	2	
		英語D	1	2	
	II 情報	ICTリテラシー	1	2	
		データサイエンス基礎 ※	1	2	
情報科学		1	2		
選択科目	I キャリア	キャリア形成論	1	2	※生物資源学部生物資源学科の学生は、「英語発展 I A～VIA・I B～VIB」を専門科目として履修することになる。
		II 英語	英語発展 I A ※	1	
	英語発展 I B ※		1	2	
	英語発展 II A ※		1	2	
	英語発展 II B ※		1	2	
	英語発展 III A ※		1	2	
	英語発展 III B ※		1	2	
	英語発展 IV A ※		1	2	
	英語発展 IV B ※		1	2	
	英語発展 V A ※		1	2	
	英語発展 V B ※		1	2	
	英語発展 VI A ※		1	2	
	英語発展 VI B ※		1	2	
	海外英語研修A		1	2	
	海外英語研修B		1	2	
	III 情報	データサイエンス応用	1	2	
		プログラミング基礎	1	2	
		プログラミング応用	1	2	
		メディア情報リテラシー	1	2	
		情報処理演習 (AI)	1	2	
		情報処理演習 (CG)	1	2	
		情報処理演習 (Web開発)	1	2	
		情報活用プロジェクト演習	1	2	
		情報技術者 (国家試験 I)	1	2	
		情報技術者 (国家試験 II)	1	2	
		情報技術者 (民間資格)	1	2	
	IV 人文科学	哲学	1	2	
		倫理学	1	2	
		西洋思想	1	2	
		東洋思想	1	2	
		東洋史	1	2	
		東洋の世界	1	2	
		宗教学	1	2	
		西洋史	1	2	
		歴史学	1	2	
		言語学	1	2	
		心理学	1	2	
		臨床心理学概論	1	2	
		社会学	1	2	
		ジェンダー論	1	2	
		現代家族論	1	2	
		地理学	1	2	
		地誌学	1	2	
		言語文化 (中国) A	1	2	
		言語文化 (中国) B	1	2	
		言語文化 (韓国朝鮮) A	1	2	
		言語文化 (韓国朝鮮) B	1	2	
東アジアの文化と社会	1	2			
V 社会科学	政治学	1	2		
	経済学	1	2		
	経営学	1	2		
	法学	1	2		
	日本国憲法	1	2		
	国際社会と法	1	2		
	現代人権論	1	2		
VI 健康科学	体育実技 I	1	1		
	体育実技 II	1	1		
	体育実技 III	1	1		
	スポーツ科学	1	2		
	運動処方論	1	2		

授業科目の名称		配当年次	単位数		備考	
			必修	選択		
選択科目	VII 自然科学	解析学	1		2	※生物資源学部生物資源学科の学生は、「統計学基礎」と「数学基礎」を専門科目として履修することになる。
		代数学	1		2	
		統計学基礎 ※	1		2	
		数学基礎 ※	1		2	
		物理学 I	1		2	
		物理学 II	1		2	
		脊椎動物の進化	1		2	
		地球史入門	1		2	
		地球環境学概論	1		2	
		バイオサイエンス基礎	1		2	
	VIII 地域※	福井を学ぶ	1		2	※地域創生士資格要件科目（この中から2つ以上の履修が必要）
		海と暮らし	1		2	
		恐竜学	1		2	
		暮らしを支える生物資源	1		2	
		水産増養殖学概論	1		2	
	IX 第2外国語	日本語A ※	1		2	※中国語A、中国語B、韓国朝鮮語A、韓国朝鮮語Bは、それぞれ週2回の授業からなり、2回の授業を連結させて4単位を与える。 ※日本語A、日本語B、中国語C、中国語Dは、それぞれ週1回の授業からなり、2単位を与える。
		日本語B ※	1		2	
		中国語A ※	1		4	
		中国語B ※	1		4	
		中国語C ※	1		2	
中国語D ※		1		2		
韓国朝鮮語A ※		1		4		
韓国朝鮮語B ※		1		4		
X 導入教育	導入ゼミナール	1		2		
	教養ゼミナール	1		2		

注1：一般教育科目については、卒業要件となる単位として、28単位以上を修得しなければならない。

注2：生物資源学部生物資源学科の学生においては、必修科目12単位に加えて、以下の区分に従い、一般教育カリキュラム表から単位を修得しなければならない。

- ① 国文・社会科学関係科目として、
選択科目Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ(運動処方論)から3科目6単位以上。
- ② 地域志向関連科目として、
選択科目Ⅷ(恐竜学を除く)から1科目2単位以上。
- ③ 数学・自然科学・情報科学関連科目として、
選択科目Ⅲ、Ⅵ(スポーツ科学)、Ⅶ、Ⅷ(恐竜学)から3科目6単位以上。

専門教育科目の履修

生物資源学科（25年度入学生）専門教育の履修方法

ア 卒業に必要な単位数

専門教育科目は、必修科目および選択科目（A群、B群、C群）からカリキュラムが編成されており、それぞれの科目群から所定の単位を修得する必要がある。

卒業に必要な単位数は、次のとおりである。（具体的な授業科目については、後記「カリキュラム表」参照。）

必修科目		68単位
選択科目	A群	8単位以上
選択科目	B群	26単位以上
計		102単位以上

イ 履修上の留意事項

生物学Ⅰおよび生物学Ⅱの履修条件

生物学Ⅰおよび生物学Ⅱの履修登録については、生物プレースメントテストの結果により、生物学基礎の履修を条件とする。

化学Ⅰおよび化学Ⅱの履修条件

化学Ⅰおよび化学Ⅱの履修登録については、化学プレースメントテストの結果により、化学基礎の履修を条件とする。

3年次配当実験科目および演習科目の履修条件

3年次配当実験科目（生物物理化学実験、生物活性分子化学実験、植物分子生物学実験、植物資源学実験）の履修登録については、1年次配当実験科目（生物学実験、化学実験）および2年次配当実験科目（生物化学実験、応用生物学実験）の単位を修得済みであることを条件とする。

卒業論文の履修条件

卒業論文を履修することができるのは、本学に3年以上在学し、かつ、次のいずれかの一に該当する者に限られる。

- ① 卒業の要件となる単位（卒業論文に係る単位を除く。）を修得している者
- ② 履修を届け出た学年終了後に、卒業の要件となる単位（卒業論文に係る単位を除く。）を修得できる見込みのある者

ウ オナーズプログラム

オナーズプログラムとは、専門教育科目について、より深く、広い専門的知識を有する人材となるために、卒業要件単位数以上の履修を自主的に選択できる制度である。

所定の単位数を修得し、かつその履修した専門科目の平均点が85点以上であるときに、オナーズプログラム履修証書が授与される。

オナーズプログラムの授業科目の種類、履修しなければならない単位数および必修、選択の別などの詳細については、後記の「福井県立大学オナーズプログラム規程」を参照すること。

希望者は、2年次の終了する年度の3月10日までに、オナーズプログラム履修申請書により、教育推

進課に申し出ること。
(後記「福井県立大学オナーズプログラム規程」参照。)

エ 生物資源学部生物資源学科における JABEE に対応した教育プログラムの学習・教育到達目標

JABEE(ジャビー、日本技術者教育認定機構、Japan Accreditation Board for Engineering Education の略)は、大学などで実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求を満たしているかどうかを公平に評価し認定する団体である。JABEE の認定審査を受け、その結果認定された教育プログラムの修了(卒業)者は、技術者に必要な基礎教育を完了したものと見なされ、技術士第一次試験を免除されて実務修習に入ることができる。

生物資源学部生物資源学科の教育プログラムは、下に示すような学習・教育到達目標を設けた技術者教育プログラムの認定を受けている。この学習・教育到達目標を達成するために、数学、自然科学及び科学技術に関する内容が全体の 60%以上となるよう定められている。生物資源学部生物資源学科への入学生、編入学生および転学部・転学科生はすべて、このプログラムの履修生となる。

尚、本教育プログラムで養成を目指す技術者とは、(1)生物資源の生産、生物資源をとりまく環境の改善、ならびにそれらに関わる応用研究・技術開発に携わる技術者、(2)生物資源を利用した化学品や食品の生産・製造・品質管理とそれらに関わる応用研究・技術開発に携わる技術者である。

〔生物資源学プログラム学習・教育到達目標〕

(A)

A-1: 生物資源に関わる技術者として、その技術に対する社会的ニーズの認知に必要な基礎的能力を身につける。

A-2: 生物資源の利用にあたって、多面的な価値観をもって科学技術が自然や社会に与える影響を考え、責任ある方向づけができる基礎的な素養を身につける。

(B)

生命科学を幅広く理解し、応用するために必要な基礎学としての数学、自然科学および情報技術を身につける。

(C)

C: 生物資源を活用した農業的生物生産ならびに工業的生物生産の専門技術に関する知識を修得する。

C-1: 生物学に関する高度な知識と、それを生物資源の生産や生物資源をとりまく環境の改善、ならびにそれらの研究開発に応用するための専門的能力を修得する。

C-2: 化学、食品学や微生物学に関する高度の知識と、それを化学品や食品の生産・製造・品質管理やそれらの研究開発に応用するための専門的能力を修得する。

(D)

D-1: 急速に変化する生命科学とそれに関わる技術に対応するために必要な情報収集能力を身につける。

D-2: 自分の考えを日本語で論理的に表現し議論する能力、及び外国語によるコミュニケーションを行うための基礎能力を身につける。

(E)

E-1: 生命科学に関わる技術的な課題を設定する能力を身につける。

E-2: 限られた条件の下で計画的に仕事を進め技術的な課題を解決する能力を身につける。

E-3: 課題解決に向けてチームで互いに協力して仕事をする能力を身につける。

注: 学習・教育到達目標を達成するため、以下の区分に従い、一般教育カリキュラム表から単位を修得しなければならない。

- ① 人文・社会科学関係科目として、
選択科目 I、IV、V、VI(運動処方論)から 3 科目 6 単位以上。
- ② 地域志向関連科目として、
選択科目 VIII(恐竜学を除く)から 1 科目 2 単位以上。

- ③ 数学・自然科学・情報科学関連科目として、
選択科目Ⅲ、Ⅵ(スポーツ科学)、Ⅶ、Ⅷ(恐竜学)から3科目6単位以上。

オ 食品衛生管理者および食品衛生監視員の資格要件に関する科目について

食品衛生管理者は、乳製品、食肉製品、添加物などの特に衛生上の考慮を必要とする企業で、製造・加工について管理・監督する者をいう。食品衛生監視員は、国や地方自治体の公務員として、空港や港の検疫所、保健所、市場衛生検査所、食肉衛生検査所、食品環境指導センターなどで、輸入食品を検査・監視し、食品、添加物、容器ならびに施設等の衛生を確保するために監視・指導等を行う者をいう。これらは、いずれも採用者(企業、国、地方自治体等)が、成績証明書などの資格要件を証明する書類をもとに資格の有無を判断し、必要に応じて設置する。

食品衛生管理者および食品衛生監視員の資格要件については、食品衛生法と食品衛生法施行令で「学校教育法(昭和22年法律第26号)に基づく大学、旧大学令(大正7年勅令第388号)に基づく大学又は旧専門学校令(明治36年勅令第61号)に基づく専門学校において医学、歯学、薬学、獣医学、畜産学、水産学又は農芸化学の課程を修めて卒業した者」と定められている。このうち、本学部のカリキュラムにおいて農芸化学に関する科目は以下のとおりである。

土壌学、植物栄養学、生化学Ⅰ、応用微生物学Ⅱ、栄養化学、食品化学、農産物利用学、
農薬化学、有機化学(以上9科目のうちから8科目の単位を修得すること)。

カ 自然再生士補の資格要件に関する科目について

生物資源学部生物資源学科は、一般財団法人日本緑化センターが運営する「自然再生士制度」における「自然再生士補資格養成機関」として認定、登録されている。

自然再生士補は、自然再生に必要な基礎知識を有する自然再生の推進者として、自然再生士が実行する自然再生業務を補佐できる能力が求められる。自然再生士補として認定を受けた場合は、上位資格である自然再生士を受験する場合に必要とされる実務経験年数が、通常より短縮される。

資格修得に必要な科目等については、2年次前期オリエンテーションの際に周知する予定である。

キ 農業技術職に関連した専門科目について

農業技術職公務員など農業技術職を専門とする職業は、生物資源学部で学んだ知識を活かすことのできる職業のひとつである。本学部のカリキュラムには、将来その分野で必要となる内容を含んだ以下の専門科目が設けられている。農業技術職公務員試験の受験希望者、農業技術を専門とする企業等への就職希望者等は、これらの専門科目を履修することがつよく望まれる。また、有害動物に関する内容の専門科目は設けられていないので、教科書や参考書により自習することが望ましい。

環境生物学、植物生理学Ⅰ、遺伝学Ⅰ、土壌学、育種学Ⅰ、生態学Ⅰ、生態学Ⅱ、森林生理・生態学、
応用昆虫学、作物学、農業経営論、遺伝学Ⅱ、植物生理学Ⅱ、応用微生物学Ⅰ、育種学Ⅱ、植物病理学、
動物資源学、植物栄養学、施設園芸学、果樹園芸学

カリキュラム表(25年度入学生用)
 生物資源学科 卒業要件単位数 102単位

授業科目の名称		配当年次	単位数		備考	卒業要件 単位数
			必修	選択		
必修 科目	生物学Ⅰ	1	2		生物プレースメントテストの結果によっては、 生物学基礎の履修を履修登録の条件とする。	68単位
	生物学Ⅱ	1	2			
	化学Ⅰ	1	2		化学プレースメントテストの結果によっては、 化学基礎の履修を履修登録の条件とする。	
	化学Ⅱ	1	2			
	数学基礎	1	2			
	統計学基礎	1	2			
	生物資源学概論Ⅰ	1	2			
	生物学実験	1	2			
	化学実験	1	2			
	生物資源学概論Ⅱ	2	2			
	地域生物生産実習	2	1			
	英語発展Ⅰ	2	2			
	英語発展Ⅱ	2	2			
	分析化学	2	2			
	微生物学	2	2			
	環境生物学	2	2			
	有機化学	2	2			
	植物生理学Ⅰ	2	2			
	動物生理学	2	2			
	遺伝学Ⅰ	2	2			
	生化学Ⅰ	2	2			
	生物化学実験	2	2			
	応用生物学実験	2	2			
	生物物理化学実験	3	2			
	生物活性分子化学実験	3	2		生物学実験、化学実験、生物化学実験、応用生 物学実験の単位を修得済みであることを履修登 録の条件とする。	
	植物分子生物学実験	3	2			
	植物資源学実験	3	2			
	技術者倫理	3	1			
科学英語	3	2				
専門基礎研究	3	2				
専攻演習	4	2				
卒業論文	4	8				
選択 科目 群	地学概論	1		2		8単位 以上
	土壌学	2		2		
	生態学Ⅰ	2		2		
	応用気象学	2		2		
	地圏環境学	2		2		
	育種学Ⅰ	3・4		2		
	生態学Ⅱ	3		2		
	森林生理・生態学	3		2		
	ゲノム生物学	3		2		
	情報生物学	3		2		
	応用昆虫学	3・4		2		
	技術者と企業Ⅰ	2・3		1		
	技術者と企業Ⅱ	2・3		1		
	作物学	3・4		2		
	農薬化学	3・4		2		
	農業経営論	3・4		2		

授業科目の名称		配当年次	単位数		備考	卒業要件 単位数
			必修	選択		
B 群	遺伝学Ⅱ	2		2		26単位 以上
	食品化学	2		2		
	生化学Ⅱ	2		2		
	応用微生物学Ⅰ	2		2		
	食品衛生学	2		2		
	分子生物学Ⅰ	2		2		
	分子生物学Ⅱ	2		2		
	植物生理学Ⅱ	3		2		
	分子生物学Ⅲ	3		2		
	応用微生物学Ⅱ	3		2		
	生物有機化学	3		2		
	生体高分子化学	3		2		
	生物物理化学Ⅰ	3		2		
	生物物理化学Ⅱ	3		2		
	生物物質化学	3		2		
	育種学Ⅱ	3・4		2		
	植物病理学	3		2		
	動物資源学	3		2		
	細胞免疫学	3		2		
	栄養化学	3		2		
	植物栄養学	3		2		
	農産物利用学	3		2		
	施設園芸学	3・4		2		
果樹園芸学	2・3・4		2			
C 群	生物学基礎	1		2		
	化学基礎	1		2		
	リサーチクレジットⅠ	2		2		
	リサーチクレジットⅡ	2		2		
	リサーチクレジットⅢ	3		2		
	地域連携実習Ⅰ	1・2・3		2		
	地域連携実習Ⅱ	1・2・3		2		
	生物資源学特論Ⅰ	3・4		1		
	生物資源学特論Ⅱ	3・4		1		



【永平寺キャンパス】

〒910-1195 福井県永平寺町松岡兼定島4-1-1

TEL：0776-61-6000(代)

FAX：0776-61-6012

〈バス〉 京福バス福井駅西口バスターミナル
大学病院線「県立大学」下車（所要時間約40分）

〈乗用車〉 福井駅より約20分
北陸自動車道 福井北ICより約10分

【福井まちなかキャンパス】

〒910-0858 福井県福井市手寄1-4-1

AOSSA（アオッサ）内

〈電車〉 福井駅東口より徒歩1分

〈乗用車〉 北陸自動車道 福井ICより約10分



【あわらキャンパス】

〒910-4103 福井県あわら市二面88-1

TEL：0776-77-1443(代)

FAX：0776-77-1448

〈乗用車〉 芦原温泉駅より約15分
北陸自動車道 金津ICより約15分



【小浜キャンパス】

〒917-0003 福井県小浜市学園町1-1

TEL：0770-52-6300(代)

FAX：0770-52-6003

〈コミュニティバス〉 小浜駅よりあいあいバスで約10分、
「西津公民館前」下車徒歩15分

〈乗用車〉 小浜駅より約10分
舞鶴若狭自動車道 小浜ICより約5分

【かつみキャンパス】

〒917-0116 福井県小浜市堅海49-8-2

TEL：0770-52-7305(代)

FAX：0770-52-7306

〈コミュニティバス〉 小浜駅よりあいあいバスで約20分、「堅海」下車

〈乗用車〉 小浜駅より約20分
舞鶴若狭自動車道 小浜ICより約20分



【勝山キャンパス】

〒911-0025 福井県勝山市村岡町五本寺17-15

〈電車・バス〉 えちぜん鉄道 勝山駅よりバスで約15分

〈乗用車〉 福井駅より約50分
中部縦貫自動車道 勝山ICより約10分



問い合わせ・事前相談先

福井県立大学 入学試験本部 (入試企画室)

〒 910-1195

福井県永平寺町松岡兼定島4-1-1

Tel 0776-68-8297

Fax 0776-61-6012

E メール nyusi@g.fpu.ac.jp

電話受付時間: 午前9時~午後5時

(土曜・日曜・祝日、年末年始を除く)